

便利なローラートレイ付広口容器 (型番4386785号) の使い方

この容器はローラーバケが直接入り、天面のトレイ部分で塗料をしごくことができる画期的な容器です。下記の使用方法にしたがってご使用下さい。使用するローラーバケはミドルローラーやスリムローラーが適しています。

使用方法 ●使用前に容器を前後によく振り、中の塗料を均一にします。(フタが開くおそれがありますので、注意して下さい)

- ① フタが容器の中に落ちないよう、フタについているつまみを持ちながら、フタの矢印のところが容器の角の隅に、マイナドライバーを差し込んでフタを開けます。フタの裏や容器の口の隅に、半乾きの塗料がついていることがありますので、濡らしたウエスで拭き取り、フタは保管しておきます。
- ② 右のようにラップでおおっておくと、洗う手間が無くなり後始末が簡単です。
- ③ 棒などで容器の底までよくかき混ぜ、塗料を均一にします。
- ④ ローラーバケを容器の中に入れローラー部分に塗料をつけます。
- ⑤ 天面のトレイ部分でローラーを転がし、塗料をまんべんなくしませて塗装します。

容器をラップでおおう方法

- ②-1 サグ手はトレイ部の方へ倒した状態で、ラップを容器の天面より大きめにカットし、缶の天面全体をおおいます。(ポリ塩化ビニリデンのラップをお使い下さい)
- ②-2 ラップを容器の天面にフィットするように軽く押さえ、余ったラップを右側に巻きつけます。
- ②-3 容器の口の部分のラップにカッターナイフなどで切り込みをいれ、ローラーバケが入るようになります。カットしたラップは容器の口の内側へ巻き込みます。
- ②-4 サグ手を持って場所を移動する時は、トレイ部のラップを容器の口の方へめくりあげてサグ手を持って下さい。再度、塗装する時はサグ手をトレイ部に倒しラップも元に戻して下さい。中の塗料が半分以下になった場合、ローラーハンドルを入れたまま持ち運びすると、傾いた(約30°)不安定な状態になりますので、両手で支えて下さい。

使用上の注意

1. 塗装下地に腐敗菌、カビ菌がついている場合があります。その菌が容器内の塗料に混ざり込むと塗料が腐敗することがあります。早めに塗料を使い切ってください。
2. 落下によりフタが開いたり、容器が変形することがありますので、容器の取り扱いに注意して下さい。



水性 屋根用 遮熱塗料

- スレート瓦
- 各種セメント瓦
- コロニアル
- カラーベスト

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。



標準塗り面積 (2回塗り) 20~27㎡ (12~16㎡)
乾燥時間 夏期/30分~1時間 冬期/2~3時間
塗り重ねの目安 夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

日射反射率 UP!

- トタン
- カラータン
- 鋼板の屋根
- 各種サイディング

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

※下塗りが必要な場合がありますので、裏面の「下地処理の注意」をお読み下さい。

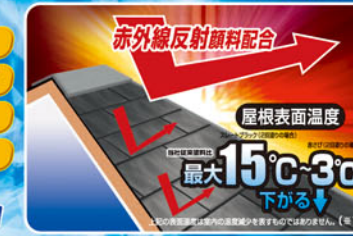


水性 屋根用 遮熱塗料

- スレート瓦
- 各種セメント瓦
- コロニアル
- カラーベスト

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。



標準塗り面積 (2回塗り) 20~27㎡ (12~16㎡)
乾燥時間 夏期/30分~1時間 冬期/2~3時間
塗り重ねの目安 夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

日射反射率 UP!

- トタン
- カラータン
- 鋼板の屋根
- 各種サイディング

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

※下塗りが必要な場合がありますので、裏面の「下地処理の注意」をお読み下さい。

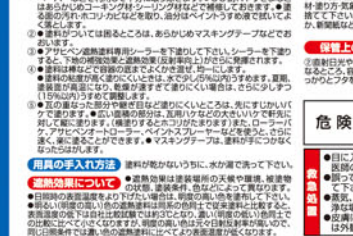


水性 屋根用 遮熱塗料

- スレート瓦
- 各種セメント瓦
- コロニアル
- カラーベスト

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。



標準塗り面積 (2回塗り) 20~27㎡ (12~16㎡)
乾燥時間 夏期/30分~1時間 冬期/2~3時間
塗り重ねの目安 夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

日射反射率 UP!

- トタン
- カラータン
- 鋼板の屋根
- 各種サイディング

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

※下塗りが必要な場合がありますので、裏面の「下地処理の注意」をお読み下さい。

商品名	水性屋根用遮熱塗料	品名	合成樹脂塗料(水溶)
成分	合成樹脂(シリコンアクリル樹脂)、顔料、紫外線劣化防止剤 (HALS)、防カビ剤、防藻剤、防藻剤、サビメテ剤、水		
特長	●特殊顔料により従来の塗料に比べ太陽光の赤外線を反射し、屋根の表面温度上昇を抑えます。 ●シリコンアクリル樹脂、紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合により耐候性が優れています。 ●酸性雨、酸性ガスに対し優れた保護効果を見せます。 ●防カビ剤、防藻剤、防藻剤配合により、長期間屋根を保護します。		
用途	一般住宅、工場、倉庫、飼料タンク・鶏舎など飼育施設などの以下の屋外用塗。スレート瓦・各種セメント瓦・コロニアルやカラーベストなどの新生瓦。モニエル瓦には適しません。 ●トタン・カラータン・鋼板の屋根。 ●コンクリート・モルタル外壁面や各種サイディング。 ※塗す水が乾かたり水に付かるところや、いつも濡れているところには適しません。		
塗装方法	①はがれがかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを利用して十分に除去します。●ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリング材などで補修しておきます。●塗る面の汚れホコリ・カビなどを取り、油分はペイント用洗剤で拭いてよく落とします。 ②塗料がついては固まるころは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。 ③アサヒペン遮熱塗料専用シーラーを下塗りして下さい。シーラーを下塗りすると、下地の補修効果と遮熱効果(反射率向上)がさらに発揮されます。 ④塗料は棒などで容器の底までよくかき混ぜ、均一にします。 ⑤塗料の粘度が高くなりくさいときは、水で少し5%以内うすめます。夏期、塗装面が高湿になり、乾燥が遅くなり塗りにくい場合は、さらに少しずつ(15%以内)うすめて調整します。 ⑥瓦の重なった部分や壁など塗りにくいところは、先にすじがけバケで塗ります。●広い面積の部分は、瓦用ハケなどの大きいバケで軒先に対して縦に塗ります。(横塗りとするとホコリがたまりやすくなります。ローラーバケ、アサヒペンオーロラローラー、ペイントスプレーヤーなどを使うと、さらに速く、楽に塗ることが出来ます。●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。		
用具の手入れ方法	塗料が乾かないうちに、水で濯いで洗って下さい。		
遮熱効果について	●遮熱効果は塗装場所の天候や環境、被塗物の状態、塗装条件、色などによって異なります。 ●日照時の表面温度をより下げたい場合は、明度の高い色を選び塗りして下さい。 ●明るい(明度の高い)色の遮熱塗料は同系の色同士で従来の塗料と比較すると、表面温度の低下は約3℃となり、暑い(明度の低い)色同士での比較に比べて小さくなりますが、明度の高い色は元々日射反射率が高いので、同じ日照条件下では、色の遮熱塗料に比べてより表面温度が低くなります。		
下地処理の注意	①つるつるした面や塗る面の凹凸(コーキング)が著しいときは、サンドペーパーで表面を粗く削り、水を乾かして下さい。②ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリング材・セメントなどで補修しておきます。③かたりの劣化が著しい場合は、油性シーラーまたはかたまり塗料専用シーラーを下塗りして下さい。		
取扱い上の注意	①表示の用途以外に使用しないで下さい。②目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また、誤飲しないよう注意して下さい。③塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。④雨の降りそうな日、湿度の高い日、風の強い日は避け、天気の良い日に塗装して下さい。夕方から朝にかけては気温が低くなり、結露する場合があります。塗装が乾燥中に結露するとツヤビケ、白化、ハガレを生じることがありますので、塗り終わりが遅くならないよう注意して下さい。塗装は天気の良い日を選び1日経過後を目安に行ってください。⑤塗装する時及び塗った塗料が乾くまでの間、5℃以下にならないような時間に通って下さい。⑥屋根を塗る場合は降りる所が最後になるように順序を考えて塗って下さい。また、転落事故のないよう十分注意して作業して下さい。塗料が乾くまでは、たいへんすべりやすいので、塗装の上を歩かないよう注意して下さい。⑦コーキング材、シーリング材には、密着しない場合があります。目立たない部分で試し塗りをして密着することを確認してから塗って下さい。⑧塗装を10分以上中断するときには、ハケやローラーをラップ、アルミホイルなどでつついて、表面が乾燥しないよう注意して下さい。⑨瓦の重なり部分などで塗料が詰まった場合には、皮スキ、カッターナイフ等で塗料を縁切りして下さい。塗料が詰まると雨漏り発生の原因となる恐れがあります。⑩塗装面を見るときに角度によってわずかに色が異なることがあります。塗布量が少なくなると、異なる色に見えます。再度塗り塗りをして下さい。⑪缶の中の塗料の色と塗っている塗料の色とはかなり異なるように見える色もありますが、乾くと見本の色になります。⑫同じ色名でも商品が異なると色が異なる場合があります。⑬缶では夏場と比較して日射量が少ないため従来の塗料より暑く感じることはありません。外壁・屋根・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。⑭容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。⑮やむを得ず塗料を捨てるときは、水性塗料用回収用で回収するが、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。		
保管上の注意	①幼児の手の届かないところに保存し、子供が誤飲、誤食、いたずらしないよう注意して下さい。②直射日光や火気のある場所、-5℃以下にならないところ、自動車内などの高温になる場所、容器がびびりやすいところは置かないで下さい。③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。		
危険	●強い眼刺激 ●鼻の障害 ●水生生物に毒性		
緊急処置	●目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。 ●誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。 ●高気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。 ●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。		

株式会社 アサヒペン 大阪市鶴見区鶴見4-1-12
お客相談室 ☎06-6934-0300 日本製 00-1204